

最強のチーム力

一人ひとりの力が組織を強くする

一人ひとりの成長や意識の変化なくして、組織の力が大きくなることはない。

限られた人数で生産性と向き合う中小企業にとって、変わらない大切な視点である。

取材・構成 富山勇二／撮影 小川佳之（P・18～21）

が組織の力を一番発揮させる

ラグビー9連覇を成し遂げた帝京大学。
応援することを目指した結果だった。



い わ ま さ ゆ き
岩出雅之

帝京大学ラグビー部監督

後ろにいるのは帝京大学ラグビー部の選手たち。帝京大学ラグビー部専用グラウンドにて

自分で決める自律的な活動は面白い

太田 私は同志社で教えています

が、ラグビー部OBで元日本代表

監督の平尾誠二さん（故人）が「ラ

グビーはチームスポーツだけど、

個人が強く、それぞれがしっかり

しないと駄目だ」とおっしゃって

いました。

岩出監督も、個人が成長し、自

律型のチームをつくり上げること

で見事九連覇を成し遂げられまし

た。まずは、これまで取り組んで

こられた体育会文化を根本的に変

革する「脱体育会系イノベーション

ン」についてお聞きしたいのです

が、部員は何名くらいですか？

岩出 だいたい毎年一三〇から

一四〇名くらいいます。

太田 けっこう大所帯ですね。

岩出 実は、私は監督に就任して

最初の一〇年はずっと勝てずに悩

んでいたんです。そんなあるとき、

試合で下級生が「負ければいいの

に」とつぶやいたのを知人が偶然

聞いていて、後でその話を聞いて

ショックを受けました。

そのとき、「部員の半数を占める

下級生が面白くないと思ってい

る。果たしてそんな彼らが自分の

チームを応援するだろうか。クラ

ブが面白くない、楽しい組織に思

えないという状態でのいいのらう

か」と思ったのです。それが組織の

在り方を見直すきっかけになりま

した。

実際に見直していくと、自分の

経験知を基にした組織づくりや自

分の中では常識だったことが、世

間の非常識だったことに気が付き

ました。例えば、それまでは監督

が先頭に立って指示・命令をして

いましたが、それでは指示待ち人

間ばかりになってしまいうわけ

です。それに、人に指示されて動く

と、タイミングは遅れるし、考え

も深くない。何より面白くない。

逆に、自分で決める自律的な活動

は面白いし、深く考えるし、反応

も早い。そこで自分を生かせる自